

東部支部合同巡検会の報告：筏場火砕流・神代杉・スコリア等の観察

著者	浜田 俊
雑誌名	静岡地学
巻	69
ページ	33-34
発行年	1994-06-12
出版者	静岡県地学会
URL	http://doi.org/10.14945/00025315

東部支部合同巡検会の報告 ～筏場火砕流・神代杉・スコリア等の観察～

浜 田 俊*

日本列島は火山の多い国である。長崎県雲仙普賢岳をはじめ、数多くの火山が今なお活動している。伊豆半島においても、かつては活動した火山が多い。

静岡県東部理科研究会と地学会共催の冬季巡検会が、1993年11月29日、中伊豆町筏場・カワゴ平周辺を中心におこなわれた。当日の天候はあまり良いとはいえないが、それでも20名ほどの人が参加した。各自車で集合場所となった中伊豆町八幡^{はつま}の交差点付近に集まっておられた。案内は静大の小山真人会員である。一同最初の見学場所へ出発する。八幡の三叉路交差点を南に折れ、天城湯ヶ島町に至る県道を大見川沿いに進む。筏場集落を過ぎた所で右折し、林道に入りしばらく車を走らせると、右手に白っぽい色をした崖を見ることができる。東伊豆単成火山群の一つ、カワゴ平火山の火砕流堆積物である(写真1)。

これら単成火山群は伊豆半島に60数個もあり、一度噴火すると二度と噴火はしない。およそ2000年に1回の割合で新しい単成火山が噴火している。約3000年前にカワゴ平火山の大規模な噴火が始まり、伊豆全域に軽石を降らせた。また何回もの火砕流が火口の北側から発生し、その堆積物は筏場付近および蛇喰川沿いで40～50mの厚さに達している。この堆積物の中に埋もれた立木(神代杉)が見られ、C¹⁴法で年代測定すると約3000年という値を示している。

火砕流にともなう大規模な土石流もたびたび発生し、被害も大きかったようである。これらの土石流は狩野川を下り、沼津あたりまで流れている。また噴煙にまじって火山灰が吹き上げられた。その一部は風向の関係で浜名湖付近にまで降りそいでいる。

次の見学地へ向かうため、車をUターンさせ県道に出る。国士峠方面に走らせるが、目的地には駐車スペースがないということで、途中車を置き



写真1 カワゴ平単成火山の火砕流堆積物
(図1の地点1)



写真2 カワゴ平単成火山の軽石状流紋岩質溶岩流
(図1の地点2)

*沼津学園高等学校

何台かに分乗する。わさび田を見ながら林道をしばらく走ると、カワゴ平溶岩流の分布している斜面に出る。流紋岩質溶岩で、二酸化ケイ素(SiO₂)の含有量は70%以上で非常に白い。表面は発砲していて軽石状になっている。溶岩というより軽石だ(写真2)。断熱性や耐火性に優れているということで、建材としての用途が高い。採掘場も何箇所かあるようだ。

次の場所はスコリアの見学である。23,000年～24,000年前、地蔵堂スコリア丘から流れ出したスコリア層や、噴火の休止期に堆積したローム層などの壁を見ることが出来る。これらの堆積層の中に黒曜石や、炭化した木片なども観察することが出来た(写真3)。この場所でもう日は暮れかかっていたので、他の場所への移動はあきらめ、ここで解散となった。

雲仙普賢岳では、今なお噴火が続き、火砕流・土石流によって、多くの生命・財産が失われ、避難生活を余儀なくさせられている。これを思うと心が痛む。伊豆地方には多くの火山があるが、幸いにもその多くは単成火山であり、今のところ再噴火する山はないようだ。最後に今回の巡検ルートを示しておく。

〈参考資料〉

静岡県地学会編 (1983)：えんそくの地学。

静岡県 (1992)：伊豆半島の火山。



写真3 地蔵堂スコリア層の観察 (図1の地点3)

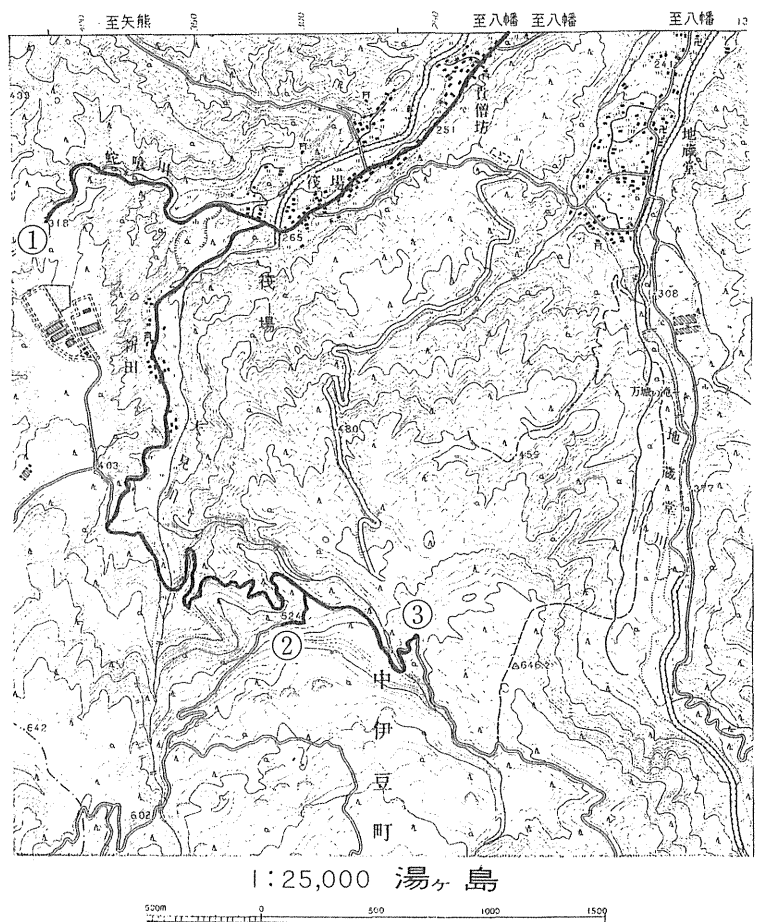


図1 巡検ルート・観察地点図